

件名	令和6年度 久留米市保健所運営協議会
日時	令和6年5月20日(月) 19時00分～19時55分
場所	久留米商工会館 202会議室
出席	<p>出席委員：鬼塚 一郎 委員、酒井 良 委員、 植田 省吾 委員、首藤 俊介 委員、白木 秀和 委員、 戸川 扶美子 委員、佐藤 総子 委員、本間 五郎 委員、 佐藤 修一 委員、小田 幸子 委員、関 美穂 委員、 古賀 真由美 委員、福井 卓子 委員、佐藤 寿美子 委員、 権藤 明夫 委員、時安 信孝 委員、砂田 一代 委員</p> <p>欠席委員：島田 昇二郎 委員、和田 久子 委員、田端 浩一 委員 (出席委員17名、欠席委員3名)</p> <p>事務局：藤田保健所長、原武保健担当部長、堤保健所次長兼総務医薬課長、 升永企画調整主幹、吉岡総務医薬課主幹、 山口保健所動物管理センター担当次長兼衛生対策課長、関健康推進課長、 倉富保健予防課長、伊藤保健予防課主幹、三浦地域保健課長、 ほか職員4名</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 保健所長あいさつ 3. 議事 <ul style="list-style-type: none"> [1] 令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画について [2] 重点事業等に関する意見交換について <ul style="list-style-type: none"> ・協議1 久留米市感染症予防計画 ・協議2 第2期久留米市自殺対策計画 ・協議3 第3期健康くるめ21計画 4. その他 5. 閉会
議事録	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 <p>開会宣言および、出席委員数を確認し協議会の成立を報告。</p> 2. 保健所長あいさつ <p>[傍聴承認について] 傍聴希望者の確認 ⇒ 傍聴希望者なし</p>

事務局	<p>3. 議事</p> <p>[1] 令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画について</p> <p>資料に沿って、事務局より、総務医薬課、衛生対策課、保健予防課、健康推進課、地域保健課の主な事業計画を説明。</p>
事務局	<p>[2] 重点事業等に関する意見交換について</p> <p>・ 協議 1 久留米市感染症予防計画</p> <p>資料に沿って、事務局より、久留米市感染症予防計画の概要を説明。</p> <p>【意見交換 1】</p> <p>協議 1 に関して各委員から意見交換を実施。</p>
委員	<p>職員数に関して。保健所の職員数の充足状況は？</p> <p>南筑後保健所は、大牟田市保健所が吸収合併されて 1 年後に水害に遭い、その後コロナ禍に入った。</p> <p>南筑後では、保健所長自ら患者さんをホテルに搬送することがあった。国の施策などあるだろうが、平時から職員数の充足に手を打てるか？</p> <p>もう 1 つは、久留米市に關係する医師会は久留米医師会、小郡三井医師会、うきは医師会、大川三瀬医師会の 4 つがある。</p> <p>コロナ禍では当医師会は、大川市長や保健所長と細かに話して連携していた。</p> <p>久留米市はどうしても 4 つまたがっている関係もあり、県保健所より報告に時間がかかっていたように感じる点もあった。</p> <p>県保健所と所管が重なる地域に関して、関係性をどう構築するか伺いたい。</p>
事務局	<p>まず、コロナ禍において保健所の人員体制が逼迫した状態をどのように解決するのかのお尋ねだが、平時において単純に人員を増やすことは困難。今年度の予防計画と健康危機対処計画を策定しており、ピーク時にどれほど人員が必要だったかを総括している。</p> <p>ただ、人員については関係部署との協議が必要なところである。</p> <p>保健所の体制としては、保健所長や次長を軸とした対策チームを発足する形である。実際に、コロナ禍でも保健予防課だけでなく、様々な課が搬送やコールセンター等を役割分担して対応した。</p> <p>その経験を踏まえ、次の新興感染症においても役割分担を決めており、保健所全体で対応する。本庁からの応援要員については今後協議が必要だが、コロナで止まっている業務などから余剰とは言わないが、全庁的に動かせる人員を招集し、感染症のそれぞれのフェーズに必要な人員を配置することを想定している。</p> <p>2 つ目の質問に関し、地域の保健所と管轄が重複するところもある。県域保健所は県から直接の指示連絡系統であるが、久留米市は県を通しての連絡ということで、タイムラグがあったかと認識している。今回の予防計画では、そういった情報伝達のずれも課題の 1 つとして挙がっており、県・保健所設置市は平時においても密な連携体制をとることとしている。</p>
委員	<p>私も課題として認識している。旧久留米市と旧 4 町あるため、皆が集まって連携をとることは難しい。より密な連携が必要かと思う。</p>

<p>委員</p>	<p>市民への情報提供について、若い方からご高齢の方まで対応してきたが、保健所が LINE を使って、予防接種がどこでできるかや、久留米市での感染者数の情報を発信したことで、情報がリアルタイムで分かり、医療現場としてもクラスター発生場所の想像ができ、また若い方への啓発にもなったと思う。今後もこのような仕組みを利用していきたい。一方で、ご高齢の方がスマホに慣れていない方もいるので、どのような状況であったかが気になる。また、外来で診療していくと、独居世帯の高齢者が外に出られないことで孤立してしまい、フレイルやサルコペニアなどの問題が発生することも懸念しており、そういう方へのアフターケア等も必要と考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>高齢者としての立場から発言すると、広報誌にその時々正しい情報が載っていたため、心強かった。パソコンが使えない方もいるため、今後も広報誌に載せてもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>市民への情報提供について、次々情報が新しくなっているため、情報の更新をするためにも、こまめな発信をしていただきたい。病院に来られる方も、不必要な手袋を外すのを恐れる方もいたため、正しい情報発信の必要性を感じた。</p>
<p>事務局</p>	<p>・ 協議 2 第 2 期久留米市自殺対策計画 資料に沿って、事務局より、第 2 期久留米市自殺対策計画の概要を説明。</p> <p>【意見交換 2】 協議 2 に関して各委員から意見交換を実施。</p>
<p>委員</p>	<p>全市民のゲートキーパーを目標とすることも大切だが、企業の管理職のゲートキーパー教育も必要と感じている。職場環境や自殺対策に意識を向ける管理職を育てることが大切と思う。自身の経験になるが、臨床心理士や精神科の先生などに入っただき、安全衛生週間などで病気について学ぶことも必要かと思う。職場であれば、管理職の教育が良かったと感じたので、ご一考いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>鬱の窓口がたくさん乗せられているが、一般の方がどれほど認識しているのかが気になる。以前、認知症の方への講演を行った際に、どこに相談すればいいかわからないとの質問を何度か受けた。介護保険ができて 20 年以上経っているが、まだ浸透していない部分もあるのではないかと感じた。良い窓口が多くあるが、より啓発を行わないと、SOS を発信したくても発信先がわからないというケースも出てくると思う。</p> <p>他の委員が述べられた通り、若い方と異なり高齢者の方はスマホを使えないため、広報誌に入れるなどすでに工夫していると思うが、さらに工夫をしていただきたい。</p> <p>コロナ禍では、動くことができずに孤立して、生きがいがなくなったことで死にたいと言って受診される方もいた。孤立化している高齢者に対して、さらにわかりやすい情報発信をされると良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>他の委員が述べられたように、どこに相談してよいのかについてゲートキーパーの取組を推進するのを感じた。</p> <p>困った方に対して、身近な人が声をかけて必要な窓口に繋いでいくことについて、様々</p>

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>な世代への取組が必要だと思うが、どの世代をターゲットにするかを明白にして取り組むと良いと思う。例えば、高齢者であれば、かかりつけの先生や介護保険事業所、施設の職員などの研修会などでゲートキーパーの研修を取り入れるなどがある。</p> <p>そういった取り組みを地道に続けていくことが重要と感じる。</p> <p>自身が自治会の役員を行っているが、何年かかけて様々な自治会に対してゲートキーパーの取組を行っていくとよいかと思う。これからは、単身者の高齢者が増えると報道で聞いているため、そのような方への情報が届くようにするためにも、自治会で少しずつ関心を持つ必要を感じている。</p> <p>かかりつけ医、産業医と精神科の先生方の講演会は、非常に評判が良かった。年に1回の開催だが、継続される予定か？</p> <p>継続する予定である。</p>
<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>・協議3 第3期健康くるめ21計画</p> <p>資料に沿って、事務局より、第3期健康くるめ21計画の概要を説明。</p> <p>【意見交換3】</p> <p>協議3に関して各委員から意見交換を実施。</p> <p>高齢者の免許返納により、運転ができず、外に出ない高齢者が増えていると思う。家に閉じこもると健康やメンタルヘルスの低下につながる。田主丸では福祉バスが廃止になる等で、高齢者の移動手段が減っている傾向にあるのではないかと感じる。</p> <p>公共交通機関などを利用し、スポーツジム等みんなが集まって運動するような場所に安く行けるような環境が必要だと感じる。</p> <p>久留米市で作られた健康アプリがあったかと思うが、認知度はどのようなものか？</p> <p>活用率のデータはないが、登録されている方のデータはあり、昨年度末で約7,000人の方が久留米健康のびのびポイントアプリに登録している。</p> <p>このアプリは認知しているが、まだ活用できていないと思う。せっかく良いものがあるので、より普及して欲しい。コロナも落ち着いて、セミナーや研修会、病院でも健康教室などを行っているので、病院施設等に協力してもらいアナウンスしてはいかがか。</p> <p>4. その他</p> <p>委員の任期が令和6年6月30日までであり、改選について今後連絡する旨を周知。</p> <p>5. 閉会</p>